世田谷まちづくりファンド助成事業　第18回（2010年度）審査コメント

土肥真人

全体講評

本年度より、運営委員長を務めることになりました土肥真人です。どうぞよろしくお願いいたします。

私は､5月29日と6月5日に初めて公開審査に臨んだのですが､助成申請された皆さん、見学にこられた市民の皆さんの熱気に、まず圧倒されました。そんな雰囲気の中で、短い時間と限られた情報に基づいて、皆さんの企画への助成の可否、また評価額を決めるわけですが、これにはものすごい緊張感が伴いました。しかし緊張感だけというわけではなく、楽しく喜びの時間でもありました。実際に運営委員を経験してみてわかったことは、評価している私たちはまた、市民の方々に見られ評価されているということです。それではますます緊張が増すのでは、とも思えるのですが、実際には反対でした。お互いに知り合い、聞きあい、学びあうことが出来たときに、一方向の評価する‐される関係は、一時的なものとなります。今回申請された全41の企画はその背後に、それぞれのまちという現場をもち、それぞれのお話があって、それぞれのひと時を、公開審査の会場に集い過ごしているのです。それは私など運営委員も同様です。仕分けを仕事としているわけではありません。私の市民としての経験と価値観が皆さんのまちと出会えたときに、不思議と緊張感は消えて、仲間を応援するという感覚になるのでしょう。それで緊張感の後ろから歓びや楽しさがやってきたのだと、今は考えています。

さて、本年度は昨年度にもまして、たくさんの応募がありました
はじめの一歩部門に13件、まちづくり活動部門に23件、ネット文庫制作部門に3件、まちを元気にする拠点づくり部門に2件の応募があり、助成決定はそれぞれ13件、17件、3件、2件（調査費）に対し、助成が決定いたしました。

助成をできない結果になったグループの方々、これは決して皆様の申請が劣っていたということを意味するものではありません。もしかしたら私たち運営委員が判断する能力に欠けていたのかもしれないのです。ぜひ各委員の講評を見ていただき、容れるべき点があれば提案書をブラッシュアップして、再度挑戦いただければと思います。

助成決定されたグループの方々、おめでとうございます。これからどのようなまちづくりの花が咲き誇ることになるのか、心より楽しみにしております。

また、公開審査を通して、まちづくりファンドの意味についても、考えさせられました。はじめの一歩部門の審査をした運営委員会では「この企画はまちと関係あるのか？」という議論が多くなされました。また公開審査に先立って開催された情報交換の運営委員会でも同様の議論が熱く展開されました。結論としてはできるだけ実施してもらおうというこ

とになりましたが、それはまちづくりファンドへ助成を申請された皆さんはどこかでまちとの関係を考えてくれる、あるいは考え実践せざるを得ないと考えたからです。最終発表会では、皆さんそれぞれの得意の分野での活動がまちづくりとどのように繋がったのか、お聞かせいただけるのを楽しみにしています。またそのときは、皆さんがまちづくりという共通の土台の上で再び出会うことになるのではないでしょうか。まちとは、そのように多様な活動がつながる場所なのだと再確認した次第です。

さて、本年度からは公開審査の方法を大幅に変更しました。一つはポスターセッションを設けて、運営委員が申請されているグループの方々の元へ話を聞きにいったこと、これは同時に申請グループ間や見学にこられている市民の方々の間でさまざまな情報交換や議論が広げられることを期待しての変更でした。私自身は大変よかったのではと、思っています。できれば来年はもう少し時間が取れればいいなとも思います。

最大の変更点は、助成の可否および助成金額決定のための運営委員による投票システムでした。決定と助成金額を同時に決められるように、各委員が投票カードに妥当だと考える助成金額を記入し、その後は一定のルールに従って自動的に両者が決まるシステムです。これは各委員が自分の考える助成の可否および金額をそれぞれ公開するという、私たちにとっては少々勇気のいる決断でしたが、結果的にひとりの市民としての立場から、申請を検討することをより自由に、そして誠実に、可能にしてくれたと思います。また運営委員一人ひとりは予算総額を考慮せずに、それぞれの企画に妥当だと考える助成金額を記してよい、というルールにしたことも効果的だったと思います。

投票システムの変更にともない、審査講評も、各委員がそれぞれの団体への講評を短く記すことにしました。どうぞそれぞれの委員の投票とそのときの思いを見てください。

本年度は、関係者の皆さんにご相談して、なんとか皆さんのまちを訪れ、皆さんのお話を伺いたいと思っています。その節は、よろしくお願いします。

最後になりましたが、今回の公開審査会へのご支援、ご協力、ありがとうございました。

個別講評

はじめの一歩部門

はじめの一歩部門への申請は今年度 12 団体ですべて助成対象としてふさわしいということになりました。審査会でも申し上げたことですが、運営委員会で議論になった一つに、活動主旨には賛同できるが、しかしまちづくりファンドにふさわしい活動なのか、という点がありました。私たちの議論の今回の結論は、はじめの一歩だからこそ、最初からまちづくりと関係ないというのではなく、ぜひまちづくりに繋げてもらおうではないか、というものでした。私はここで一つ一つの団体に対してのコメントは致しませんが、しかし助成を受けることになった 12 団体の皆さんが、それぞれの企画を成功され、さらにまちづくり

へとさまざまなかたちで繋げていただけることを祈念し、また確信しています。

まちづくり活動部門
1年目
１－１　フラワーランド園芸ミニディ
花壇を日々維持し美しく花を咲かせることは、大変な作業だと思います。ご説明にありましたように、施設や学校の人たちとの共同作業を通して、花を咲かせることの大変さや楽しさを分かち合って下さい。またぜひ、高齢者、障がい者、子どもたちが花に囲まれながら一同に会し、交流できる機会を作れないか、検討して欲しいと思いました。

１－２　小田急線跡地を考える会
あとちの空間デザインを住民とともに考え、その考えるプロセスを通して、人々のつながりもデザインしようというコミュニティ・デザインの試みはとても重要だと思います。プロセスの設定も妥当性の高いものだと評価しました。だた、参加者の想定（人数や属性など）がいまひとつ具体的にイメージできませんでした。惜しくも助成決定には至りませんでしたが、ぜひ活動を継続していただき、その実績で再度申請して欲しいと強く思います。

１－３　喜多見
委員の席の目の前でのプレゼンテーションは迫力がありました。まちの歴史をとりもどそうという大切な取り組みだと思います。100 人の子どもたちが宮昇殿を奏でながらまちを練り歩く風景は、考えただけでも素晴らしい。またそれが戦争で痛めつけられた悲しく美しい喜多見囃子の復活の一歩であれば、戦争から帰ってこられなかった舞手、奏手の方々へのまちをあげての供養にもなるかもしれませんね。助成額は十分でないかもしれませんが、ぜひ子ども達の宮昇殿、実現してください。

１－４　共生する街成城を創生する会
活動の中心が勉強会であり、そこで学ばれたことがどのように活動に反映されるのかイメージができませんでした。また勉強会の内容、講師、参加者も具体的なイメージができませんでした。またポスターセッションの時にはおられなかったので、これらの点を確認することも出来ませんでした。

１－５　野川の多自然型川づくりを考える連絡会
小さな生き物たちをもう一度まちに迎え入れることはとても大切なことだと思います。その為には物理的な環境はもちろん、まちの人々の心に受け入れられることも大事です。ぜひ魅力探しや環境調査、外来種駆除や在来種の移植などの作業を、多くの市民の方と共同して実施することを検討していただければと思います。

１－６　Ｔ＆Ｉリーダーチーム
多くの先輩や後輩と一緒に児童館の活動をサポートする伝統はすばらしいと思います。今年はまちづくり部門の助成ということもあり、ぜひ児童館も含む「まち」との関係を、若者の視点から考え、実践してもらいたいと思います。そしてそのときに見えてきた風景や問題を、発表会で教えて欲しいです。

１－７　ＳＡＮ／せたがや地域共生ネットワーク
活動内容に関わらず場を「ひらく」という点で連携するという発想には、たいへん感心しました。8団体をつなぐ現在の道がより多くの「ひらかれた」場をつなぐ道となり、そしてまちとなり、人々の心もひらかれるというイメージは説得力があります。１，２，３年目の目的を独立したものとせず、1年目から、小さくても、２，３年目の取り組みを始めていただければと思います。

１－８　ふれあい喫茶「窓」の会
会報を通して地域の人たちと交流し、団地内の問題に興味を持ってもらい、また地域の活動拠点とするという目的には、切実な問題への新しい対応策があると思いました。今回は残念ながら助成決定には至りませんでしたが、ぜひ小さくともこれまでの活動を継続していただきたい。そしてまた、是非ファンドへ申請していただきたいと思います。

１－９　東京グリーンプロジェクト
土を作り、さわり、野菜を育て、食すことは、都会に暮らす私たちにとって、失われた大切な多くのものを取り戻す重要な機会だと思います。今年の秋には盛大な収穫祭が開かれるといいですね。助成金額が減額されていますが、ぜひ学校菜園を実現してください。

１－１０　水俣世田谷交流実行委員会
満額助成おめでとうございます。ドキュメンタリのテーマは障害、芝居にあるのだと思いますが、ぜひもうひとつ「まち」「地域」という視点を組み込んだ素敵な映像を制作してください。ファンドの発表会では時間が足りないでしょうから、運営委員やファンド関係グループのメンバーを上映会へ誘ってください。

１－１１　しもたか.com
コミュニティ・ラジオという考え方には賛同しました。しかし企画が具体的にイメージできませんでした。例えば放送内容、体制、時間などです。又作業スケジュールも少々アバウト過ぎだと感じました。ご説明いただいたラジオの発信局を増やすという点は、適法な範囲の電波出力との関係で、例えば地図などを示して具体的に提案して欲しいと思います。

１－１２　ユニバーサル・キッズ・デイキャンプ
こどもたちが管理の都合ではなく一人ひとりの状況に応じて行動できるようにする、その一環として屋外イベントを、という提案には強く共感しました。ただ、この活動とまちづくりあるいは地域との関係がどのように築かれるのかは、よく理解できませんでした。発表会ではぜひ、活動の成果にまちづくりの視点をとりいれて、教えてください。

１－１３　放課後あそび舎
学校と校庭にはない、自然とまちと近所の人々と触れ合うことが、こどもの成長に大切だという主張と提案に、賛同しました。ぜひ地域のさまざまな人がこどもの成長の過程に現れ、喜ぶ子どもの姿から大人が学べる、そんな機会を作ってくださるよう願っています。

１－１４　EARTH CREW
イベントを軸に活動されるということですが、それぞれのイベントのイメージ、どのような方々が参加されるのか、また参加者のその後のつながりなど、まだ私にはイメージができていません。発表会では多くのイベントを通して、どのようなつながりが生まれ、まちに組み込まれたのか、多くの方々の笑顔とともに報告していただければと思っています。

１－１５　ＮＰＯ法人カプラー
審査会で質問しお答えもいただきましたが、やはり地元の人と上京した人とのつながりのための交流に、バスツアーというのが適当なのかという疑問が残りました。また参加者の費用負担と申請された支出のバランスも納得できなかったのです。ただ目的そのものには首肯できましたので、方法と収支計画を再検討して再度挑戦していただきたいと思いました。

１－１６　ユリウス２１　せたがやチーム
歌のちから、人々を結びつけるちからは、すごく大きいと私も思います。しかし歌詞を公募し、できるだけ宣伝して、区民に愛される歌にする、というのは、私には実現性が低いと思えました。しかし私が間違っているかもしれません。今回は助成対象とはならなかったのですが、ぜひお金がかからない方法で作曲、録音、宣伝を試みられては、と思いました。そしてその歌と実績を持ってまた挑戦してください。

2 年目
２－１　豪徳寺駅周辺風景づくりの会
昨年作成されたパンフレットを活用し、さらにＷＳを重ねてより多くの人々とつながろう

という姿勢は、すばらしいと思います。人のいる風景、人がつながっている風景をぜひ実現してください。また人がいる風景バージョンのマップも見てみたいな、などと考えてしまいました。

２－２　道の会

自分たちのまちの道路に名前を付けようという発想と実行力に脱帽です。ひとりでも反対の人がいたらその名前は付けないというのも、まちの優しさを表しているようでした。やはり住民の方は自分の家の面している道路が一番気になるのでしょうか？今度教えてください。

２－３　岡さんのいえ　ＴＯＭＯ

安定した活動を繰り広げられているようで感心しております。結果的に助成額が昨年よりも大きく減りましたが、どうか質の高い「まちのお茶の間」を保っていただきますよう。これに関連してですが（まだ先のことだと思いますが)、助成後の「自立」のことも、一緒に考えさせていただければと思っています。

２－４　芦花公園しあわせの野音の会

審査会でも申し上げましたが、外で活動することも意味、活動を通じて顔見知りになることの意味、の検討から、災害時の外での避難生活へとつなげる発想と提案には感銘を受けました。昨年の活動に加えて、ぜひさらに地域の人々のつながりを公園を軸に広げて深めてください。

２－５　わいわいコミュニティ・たまがわ

ものすごい活動量に圧倒されました。のべ参加者 1500 人余、本当に驚きました。昨年度からの課題である、参加者の準備・片付けへの参加、高齢者施設ならではの高齢者、子どもとの交流、どれも簡単には行かないけどあきらめないでゆっくり進められるとのこと、心強い言葉です。ぜひ少しづつの成果をあげてください。

3 年目

３－１　読書空間みかも

この 4 月から地域共生の家としてもスタートされたとのこと、おめでとうございます。多彩で数多くの活動には感心するばかりです。またその場所が近代建築であるとのこと、活動をとおして地域になじんだ古い建物を守られていることにも敬意を表します。「個人宅でも公共施設でもない」ところにも公共的役割があるのだから公的資金の応援があってもいいのではと、来年のことなど考えてしまいました。

3－2　塚戸小学校　おやじの会
まちづくりでよく言われるのは、働く世代の男性の欠如です。そろいのＴシャツで働き盛りの男達がずらっとならんで、まちを、地域をささえるのは俺達だ、なんて言っているのを聞くと本当に心強く、そしてうれしくなります。今年の課題のひとつお母さんの理解を得られるよう、期待しております。

ネット文庫制作部門
４－１　認知症予防しようねット
はじめの一歩から 4 年の間、活動を継続されたことに敬意を表します。私自身は認知症のことをあまり知らないのですが、しかし本人にとっても家族や介護者にとってもつらいことの多いことだとは聞いております。ぜひ活動の経緯や内容などを、そしてねットとまちのつながりを、ビジュアルにまとめていただければと思います。

４－２　玉川まちづくりハウス
審査会のときにも申し上げましたが、長年にわたる多彩でまた地道な活動を、どのように切り取り見せていただけるのか、本当に楽しみです。また玉川まちづくりハウスの歴史をまとめることは、日本のまちづくりの歴史の大きな一ページを綴ることになりますよね。大変な作業だと思いますが、ぜひがんばってくださいますようお願いします。

４－３　FILMe
ネット文庫部門の枠組みを利用した新しい提案だと感心しました。映像がどのようにまちとつながるのか、まちで開催される映画祭とは違った提案を、いただいたと思います。ぜひファンドの仲間たちに素材になってもらって、技術の紹介と同時に彼らとのつながりを強めていっていただきたいと思います。われもわれもと殺到するようになればしめたものですね。